

QOL

Quality Of Life

QOL
サポーター
新潟

vol. **53**

02 「特集1」NUHWのオンライン授業

04 「特集2」ベーシックな能力を育む 基礎ゼミ

06 「くらしサイエンス」メガネが脳の活性化につながる！メガネの役割と効果

08 地域貢献・課外活動紹介／栄養サポート部の取り組み

09 夢を叶える就職支援／就職センターでのサポートに密着

10 キャンパスニュース

学び



特集1

NUHWの

オンライン授業

NUHW's ONLINE LESSON



Case 1

視機能科学科 基礎ゼミ



生方 北斗 先生

この科目は1年次生を対象とした授業で、大学での生活や学習の仕方を学ぶとともに学科内の交流を深めていく内容となっています。また学生さんは学科教員が担当するゼミでグループワークを行い、その成果を発表します。

今年度は新型コロナウイルスの影響でオンラインでのゼミ活動となりましたが、当ゼミではその状況を逆手にとって、グループワークのテーマを「オンラインだからこそできる親睦の深め方」として活動しました。

オンライン授業のメリットと工夫している点

オンライン授業のメリットは、「授業に参加している学生さんへ提供する情報に偏りがない」ということだと思います。通常の授業では、教室のサイズや学生さんが着席する位置などによって学生さんにとっては「ホワイトボードが見えにくい」「声が聞こえづらい」といったことがあると思います。また、パワーポイントスライドをスクリーンに映し出すと、特に写真は画質が悪くなる時があったり、資料の閲覧箇所が分かりづらくなることもありました。

うときに悩ましかった授業の質を確保できていると感じ、学生さんにとってより良い学びに繋がっていると思います。

ただし、学生さんのネット環境によっては通信が途切れてしまうこともあるので、できるだけ授業の様子を録画して、後からでも確認できるようにしております。また、直接対面できない環境下で学生さんが自ら交流を深めるのは難しいかと思えますので、少人数制のゼミ(基礎ゼミ)の冒頭では毎回、全員参加型のゲームを行って学生間の仲を深められるように工夫しています。

また、基礎ゼミに限って言えば、毎回のアイスブレイクの内容を考えたり、その日のグループワークによっては学生同士の議論が進むように教員が入らないようにしたほうがよい、ということを考えておきます。



活用ツール

大学に所属する学生さん全員がアカウントを持っている Microsoft Teams を用いています。大人数と対面したい場合は Zoom を用いることもあります。

オンライン授業の感想です!



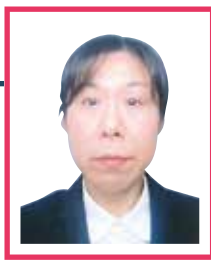
視機能科学科4年 安達 美里
新潟県 三条東高校 出身

オンライン授業を自宅で受けてみて、大学で受講するときより良い意味でリラックスできており、周囲の環境を気にせず、集中できています。また、先生方も対面で授業をしているときより「伝える」ことを重視してくださり、いろいろなツールを使って細かく説明して下さることが多く、分かりやすいと感じました。また、ビデオ視聴による授業では、何度も見返すことができるため、復習にとても役立ちます。

生活上では、通学の時間が無くなったことで、一人暮らしの私にとっては空き時間に家事ができるなど、1日の時間を効率的に使うことができています。



この科目では、介護を必要とする人の生活の質(QOL)およびノーマライゼーションの考えに基づき、利用者主体の自立支援に向けた介護について学びます。また介護を必要とする人の個性や生活の多様性と社会のかかわりを理解することで、介護福祉専門職としての多面的視点や考え方を習得します。さらに個性の高い生活ニーズ・介護ニーズに対して適切かつ最適な介護支援を見出していく能力を養うことができます。



佐久間 由紀 先生

オンライン授業のメリットと工夫している点

受け手である学生は、ポータルサイトやGメール、Teamsなどの使用により、文字による情報量が多くなっています。その膨大な情報をすべて把握しなければならぬ状況を考慮して授業を進めています。教員からの一方的な情報発信とならないように、Teamsを使用して同時双方向型の授業を中心に展開しています。少なくとも、学生の反応(例えば見えている、聞こえているなどの返答や質問)を直接受け取ることができます。その場で対応・返答することが可能です。アプリケーションのチャット機能も学生が質問や意見、感想を出しやすい理由の一つだとも考えられ、必要な事柄を伝えてきてくれる学生も多いです。昨年度と同じコースの学生に行っている授業においては、大勢で授業をしていない環境であるためか、授業内に質問や感想を伝えてくれる学生が出てきています。また重要な内容については、繰り返し教員からの言葉で伝えることができ、理解度や習熟度が確保されるのではないかと考えています。

活用ツール

15回の授業で12回はTeamsを使用している同時双方向型の授業です。ほか3回はオンデマンド授業をしています。オンデマンド授業では、学生に課題を提示し作成後に提出してもらっており、学生の使いやすいさやPC操作の習熟度に合わせて、Teams、ポータルサイト、Gメールを使い分けています。

オンライン授業の流れ

授業用スライド(パワーポイント)を使用し、教室にいる場合と同様、口頭で学生に質問するなどしています。本科目は演習も必要であるため、授業内で簡単な課題を提示しその場(Teams内)で答えてもらっています。学生の返信内容を活用し、学生へのコメントを行いながら授業を進行しています。オンデマンド型授業は、初回授業時に3回分の授業日(課題提示日)を伝え、同時双方向型授業の際にもインフォメーションし実施しています。



オンライン授業の感想です!



社会福祉学科2年
渡邊 玲奈
福島県 福島東稜高校 出身

佐久間先生の授業は、私たちにとって分かりやすい授業です。先生が施設に勤務していた時の失敗談や学んだことを多く教えてください、パソコン越しで「うわあー分かる!」と納得することが増えました。授業では実習のポイントや留意点などをご自身の体験談に基づいて具体的に話して下さるため、次の実習はこうしてみようかなと思うことが多くあります。また、自分はこうしたいけどどうなんだろうという自分自身への問いかけが増えていくので、楽しく学ぶことができます。さらに、先生が、「介護福祉」の実際の場面での体験的理解とその視点を示して下さるため、私にとっては実践に繋がる授業になっています。



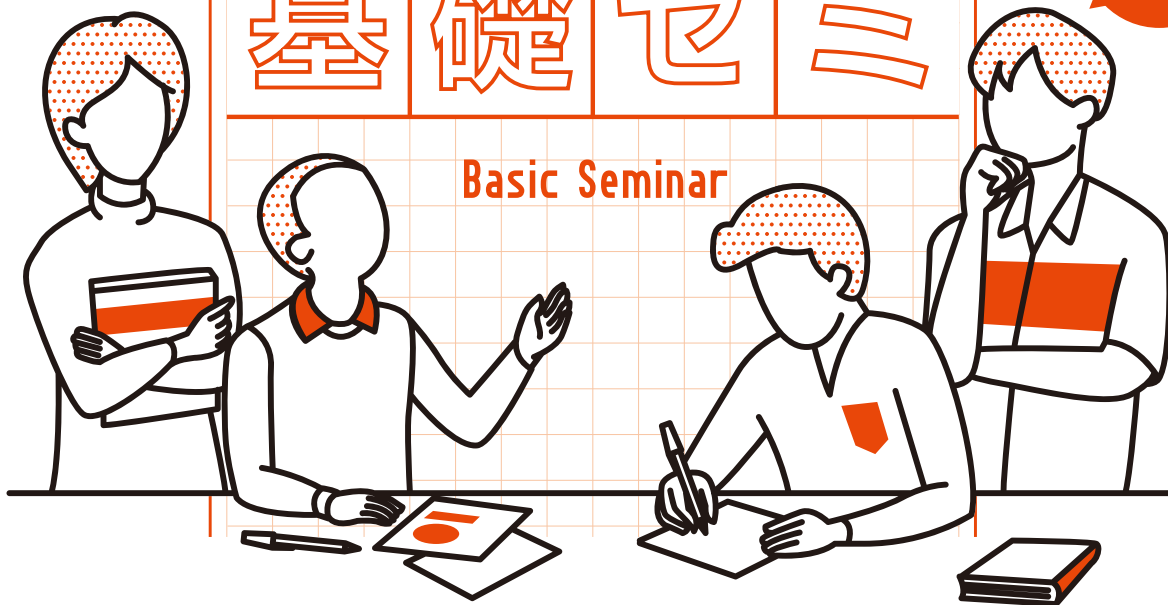
Develop basic abilities

ベーシックな能力を育む

基礎ゼミ

Basic Seminar

特集2



本学では、アドバイザー制という担当教員の制度を導入しています。「大学での学習」「将来の目標」「友人や先生との人間関係」「一人暮らし」など、新入生が抱く様々な不安に対し1年間を通じて相談に応じ、充実した大学生活が送れるよう支えていきます。

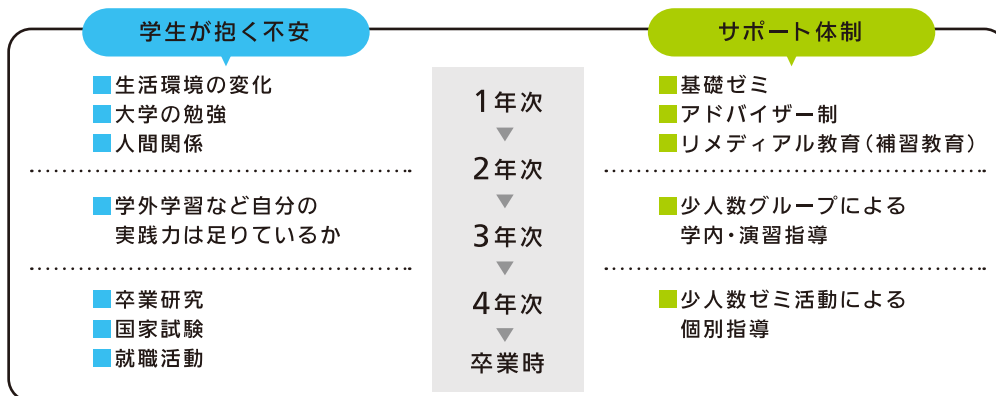
〈アドバイザー制〉
担当教員による少人数指導体制

基礎ゼミは、1年生の全学生を対象に行われる少人数制のゼミです。学生は7〜8名程度のグループに分かれ、各グループを教員1名が担当します。ゼミでは、健康で充実した大学生活を送る基本的な能力を育むことを目的に、大学での学習方法や心構えなどを指導します。また、ディスカッションを数多く取り入れ、友人づくりやコミュニケーションの場としても活用されます。

〈基礎ゼミ〉

入学から卒業まで学生の「学びやすく」をサポート

本学では、基礎ゼミの他にも様々な学習支援体制を整備しており、入学から卒業まで学生一人ひとりをきめ細かくサポートします。



ゼミでの学習を通して



言語聴覚学科2年
鎌田 日南
秋田県 ノースアジア大学明桜高校 出身

**基礎ゼミに参加しての
感想・課題・学んだことなどを
教えてください。**



所等に気づき、興味を持つたのがきっかけでした。私のゼミのメンバーは出身の県がばらばらだったため、私の県ではこうだ、というような話は興味深く、親睦を深めることにも繋がりました。

言語聴覚学科のゼミ活動では、ゼミ対抗のバレーボール大会、食事会などを行いました。最も印象に残っているのは、ゼミごとにテーマを決めてポスターを制作したことです。私の所属するゼミでは同じ学年の言語聴覚学科の学生から話を聞いて、地域ごと呼び方が違うものについて調べました。ゼミのメンバーと雑談をしている途中で自動車学校の略称として使っている言葉が人によって違っていたこと「車学」や「教習

**基礎ゼミでの学びを
今後どう生かしていきたいか
教えてください。**

この活動では、小さな興味でも単なる興味で終わらせずメンバーと協力して調べていくことで、自分たちの仮説とは異なる結果、新たな発見がある楽しさを学びました。また、パワーポイントでまとめる作業は、見る人を意識した見やすい文字の大きさ、バランスなどが難しく、先生からアドバイスをいただきながらもメンバーで検討を重ねてやっとの思いで完成させました。完成後はゼミ内で簡単な発表会を行いました。ゼミでの活動はこれからの大学生活において、志をともにする仲間との絆を深めるだけでなく、将来的にも役立つ知識を得ることができました。



将来の「理想像」



診療放射線学科2年
白井 幸之介
福島県 葵高校 出身

**基礎ゼミに参加しての
感想・課題・学んだことなどを
教えてください。**

私たちの学科では、将来の夢についての作文を代表者が発表する。夢を語る会を行いました。全員が明確かつユニークな目標を持っていて、それを共有する良い機会になりました。それまで、私はただ闇雲に診療放射線技師を目指していただけでしたが、他人の将来の夢についての発表を通して将来の「理想像」を描くことができました。また、各学年が一度に集まって会食を行う交流会では、上級生とのコミュニケーションの中で、大学生活に役立つ情報などを教えていただきました。さらに、同級生の意外な一面も知ることができ、その後の大学生活がとても有意義なものとなりました。

**基礎ゼミでの学びを
今後どう生かしていきたいか
教えてください。**

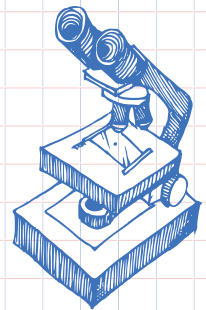
今回、私は基礎ゼミを通して将来の「理想像」を描き、さらに有意義な大学生活を送ることができました。「理想像」を描いて終わりではなく、今後はその目標に向かっての努力を続けていきたいです。また、大学生活の中でも生活のリズムを整え自立した生活を送り、努力を怠らず人としても成長していきたいです。目標への努力や自立した生活を大切に、そして将来は、描いた「理想像」のように患者さんのQOLを向上させることができるような診療放射線技師として活躍したいです。



「くらしのサイエンス」

テーマ

メガネの役割と効果

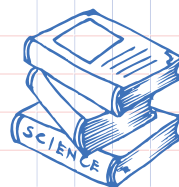


メガネの役割

メガネはもともと近視や老眼など、見えにくくなった眼に対してその不足を補い、網膜上に鮮明な像を映すことを目的に使用されてきました。近年になってメガネは飛躍的に進歩し、境目のない遠近両用レンズの登場で、遠くも近くもストレスなく快適に見えるようになりました。

「遠近」だけでなく、室内専用の「中近」やデスクワーク専用の「近々」など、用途に応じて使いやすいメガネが次々に開発され、日常生活の必需品となっています。

メガネは、レンズが1枚だけの簡単な道具のように見えますが、その働きは実に奥深く、単に視力が良くなるだけでなく、仕事の能率アップやストレスの解消、脳の活性化を通して若さの保持やボケ防止に役立つなど、多くのすばらしい効果があることが分かってきました。



メガネの効果について科学的知見

私はこれまで、「メガネをかけてはつきり見えるとき」と「メガネを外してはつきり見えないとき」に、どのような違いがあるかを、いくつかの手法を用いて、他覚的に比較する研究を行ってきました。

その結果は次のようなものです。
1. 「眼底カメラ」を改造し、眼の前にある文字が眼底にどのように映るかを比較したところ、メガネをかけると像が鮮明になり、メガネを外した時との違いは一目瞭然でした(図1)。

あるかを、いくつかの手法を用いて、他覚的に比較する研究を行ってきました。

メガネが脳の活性化につながる!



視機能科学科
金子 弘 教授

$$V^2 = U^2 + 2as$$

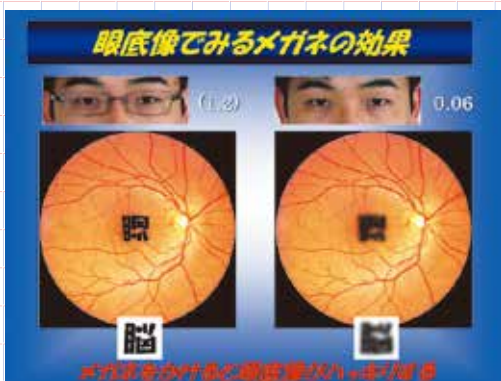


図1 眼底像の比較

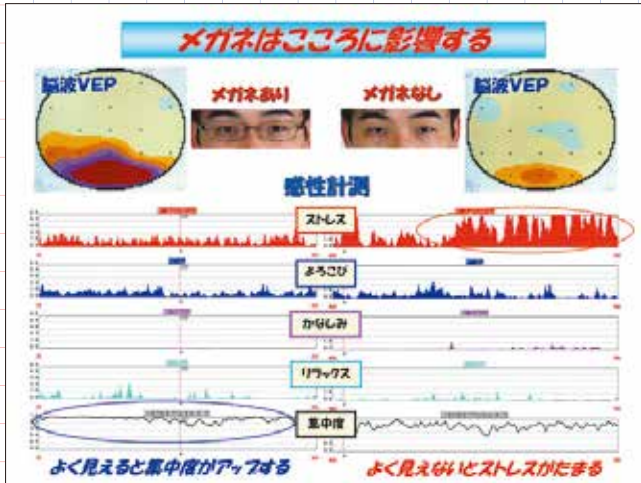
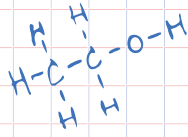


図2 脳波VEPおよび感性計測の比較

図3 「みる」にもレベルがある

図4 メガネの効果

$$S = \frac{U^2 \sin^2 \theta}{g} = \frac{U^2}{g} \sin \theta \cos \theta$$

脳にかけるメガネ

2. 「視覚誘発脳波<VEP>を用いた研究では、メガネをかけると脳の活動が活発になり、脳が元気に活性化することが分かりました(図2上段)。

3. 人間の持つストレス、喜び、悲しみ、リラックスの4つの感性がわき起こるとき、θ波、α波、β波の3つの波長帯の脳波がどのような強度分布で現れるかを解析する「感性計測」の手法を使うと、メガネを外してよく見えないときは無意識のうちにもストレスがたまり、メガネをかけるとそれがきれいに解消して集中度がアップすることが分かりました(図2下段)。

4. その他、fMRIやZDSS(ニルス)を用いた研究でも、メガネをかけると視中枢や眼球運動の中枢に血流が増加し、有意な変化が見られました。

眼でみる視覚情報は全体の8割に達するといわれ、メガネによる屈折矯正は、人間にとって情報の入力障害を解消する最も重要な手段といえます。

また、「みる」にはいろいろなレベルがあり、単に光が入っただけのものから、読み取りをしたり、興味や関心を持ってみるものなど、多くの「みる」があります(図3)。昔の中国人はそのことをよく知っていたと見えて、それぞれの意味を持つ漢字がちゃんと区別されています。「みる」レベルの違いは活動する脳の領域にも影響し、興味や関心、思い入れを持ってみるにより、脳はより広い範囲で働くことが分かっています。



結局、メガネをかけることは、単に視力が上がるだけでなく、シャープな視覚情報が刺激となって脳を活性化することに繋がります。平たく言えば、頭が良くなる、若さを保つ、ボケ防止に役立つ、ということですよ(図4)。

高齢者施設でよく聞く話ですが、「メガネや補聴器を使っている人はいつも元気で活動的だが、そうでない人はすぐにボケる…」人間の五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)をしっかりと使って脳に刺激を与えている人は、脳がいつまでも元気でボケることが少ないというわけです。遠近両用のメガネで視覚を補正し、両耳の補聴器で聴覚をケアし、いい香りに包まれて、おいしいものを食べ、自分の好きなものに触れて生活することが、脳を元気に長生きする秘訣ではないかと思えます。私も含めて、高齢社会を元気に生き抜くための第一の選択は、まずはよく見えるメガネをかけること、というの、ちょっと言いすぎでしょうか…。

学びの
フィールドを
学外へ!

地域貢献・課外活動紹介

栄養サポート部

の取り組み



栄養サポート部に所属する学生が主体となって活動している「松浜子ども食堂はびまる」。
栄養サポート部の地域貢献や関わりについて、その取り組みを紹介します。



活動を紹介します!



健康栄養学科3年
新潟県 新潟中央高校 出身
岡島 知夏

「はびまる」での活動について

「松浜子ども食堂はびまる」では、北区にある松浜地区の住民の方々を中心に食事を提供しています。小さいお子さんからお年寄りの方までいつも幅広く食へに来てくださっています。食事の内容としては、毎回アンケートを取り、どのような食べ物が好きか、食べたものは何かなどの質問の回答を参考にし、部員たちで献立を考え作っています。バランスが良くなるように、主食・主菜・副菜をそろえ、時にはデザートを追加したりと、いつ来ても楽しんでもらえるように努力しています。また、子どもたちの孤食・家庭環境からの問題などを解決すると同時に、子どもたちにとって楽しい環境となるように、折り紙やお話などを通して子どもたちとのふれあいの場としても活用しています。

活動を通して感じたこと

「はびまる」での活動は、本当にたくさんの方からの協力を得て成り立っています。開催していく上で関わってくださっている周りの方たちはもちろん、地域の方などから食材の寄付をいただいたり、調理のお手伝いに来ていただいたり、また、食へに来ていただいている皆様にも支えられていると感じます。そして、私たち栄養サポート部として初の試みともなる、部活主体の子ども食堂という活動を部員たちで試行錯誤しながら進めていくことは、私たちとしてもとても成長できる活動であると感じます。



健康栄養学科
澁谷 顕一 准教授

学生がこの事業を始めてから、日本全国の様々な方々から激励の言葉をいただいています。また、日本中から寄付もいただけるようになりました。学生は勉強もアルバイトもしながら子ども食堂を運営してくれています。簡単なことではありませんが、学生たちが創意工夫し実現してくれています。また、学生たちにとってこの上ない学びの場となっています。今後も、少しでも地域の方々のためになるよう頑張ってもらえればと思います。

夢を叶える就職支援

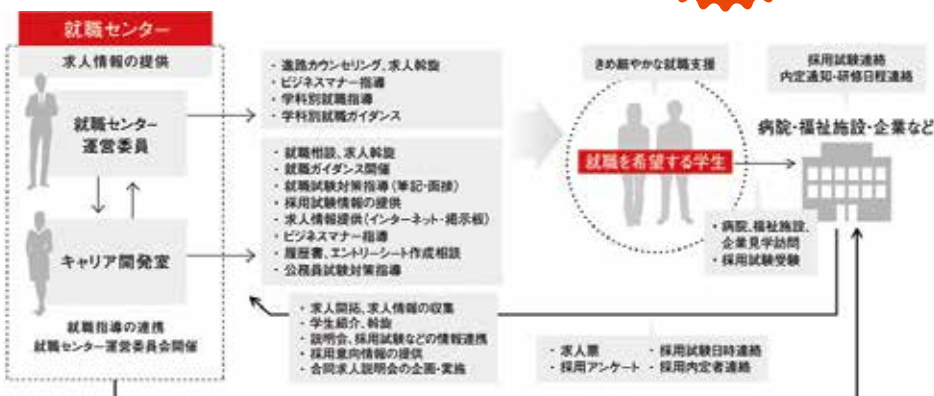
就職センターでのサポートに密着

大学全体の就職内定率

99.7%

(2020年4月30日現在)

本学では、就職センターによる就職指導プログラムのもと、全学を挙げた組織的な就職支援体制を構築しています。また、学生一人ひとりの就職活動をサポートするため、学生の希望に応じた個別指導を徹底しています。さらに、企業の人事担当者や就職アドバイザーによるセミナーを実施し、就職活動に向けた心構えを身につけます。就職試験本番に向け、面接試験や筆記試験対策なども行い、全学生の就職活動を成功に導きます。



就職支援内容



面接試験対策(3年次) ~豊富な情報を利用して実践的な面接指導を実施~

これまでの卒業生から提出された13,000件を超える膨大な採用試験報告書をもとに、就職試験本番を想定したリアルな質問で模擬面接を実施します。終了後は、iPadで録画した模擬面接をその場で振り返りながら指導を行い、採用試験の合格へ導きます。

履歴書作成相談(4年次) ~キャリア豊富な専門職員が徹底支援~

経験豊富な専門スタッフが、学生一人ひとりと面談し、個々の興味・関心・適性を把握します。これらの情報をもとに、学生の魅力を最大限に伝えるための履歴書の記入方法やエントリーシートの作成方法についてアドバイスをを行います。

業種別学内説明会(4年次) ~就職に直結する貴重な情報収集の場~

採用担当者を本学に招き、業種別の合同求人説明会や企業説明会を数多く実施しています。本学卒業生は医療機関や福祉施設などから高い評価を得ており、毎年、本学学生の採用を希望する機関・施設が多数参加し、就職に向けた貴重な情報収集の場となっています。

就職活動の流れ



医療情報管理学科4年
新潟県 中越高校 出身
島田 大輔

私が就職活動を始めたのは3年生の秋頃です。元々、県外のIT業界を志望していました。初めに、システムエンジニアとして成長できる環境か、「社会の発展に貢献できるか」を就職活動の軸としました。その後は軸に沿って企業のインターンシップに参加し、2泊3日で連続して予定を入れるなどして金銭面と時間の無駄がないように心がけていました。

インターンシップに参加することで、企業や業界に対しての理解が深まり、ES(エントリーシート)が書きやすくなりました。ことや面接の際に熱意を伝えやすくなりました。また早期選考を受けることができたため4月の下旬には内定をいただくことができました。

活動を通してのエピソード

就職活動で大きな武器となったのが本情報技術者の資格です。この資格試験を早期に受験したいと教員に伝えたり、春休みなどの空いている時間を使い、過去問題の解説をしていただきました。その他にも、私の苦手としていたアルゴリズムの解法テクニックを教えていただくなどサポートをしていただき無事合格できたことで、インターンシップや就職活動がスムーズに行うことができました。

実際の就職活動では、就職センターに、ES添削や面接練習でサポートしていただきました。ESの自己PRを記載する箇所でもうまく書けずに戸惑っていることを伝えると、親身に相談に乗ってくださいました。例えば、「やる気や情熱が企業に伝わるESにした方がいい」といった私に合ったアドバイスをいただき、面接で質問された際にも言葉に詰まることなく回答することができました。面接練習の際には、入退室などの基本的なマナーに加え、回答に困ったときの対処法などを教えていただきました。十分な練習が行えたため、自信を持って本番に臨むことができました。



キャリア開発室長
石崎 伸一

本学学生の特徴は、「コミュニケーション能力の高さだ」と思います。多職種連携を学んでいるだけでなく、様々な職種を目指す多くの学生と学部ごとに区切られていないフラットな環境で日々学んでいること、クラブ・サークル・ボランティアが盛んなことも理由だと思えます。一般企業に就職する学生も、日々看護や福祉を目指す学生と接しているからか、「優しい」と評判です。高い国家試験合格率や入職後の低い早期離職率も評価いただいております。

今後とも就職した本学卒業生をご指導いただくことも、優れたO/Lサポーターを目指し学んでいる本学学生を受け入れていただければ幸いです。

【女子バスケットボール部】
2019年度卒業生溝部 稚菜 選手
新潟アルビレックスBBラビッツと
契約締結!

本学女子バスケットボール部出身の卒業生溝部 稚菜 選手(みづな べちな)が、2019年度健康スポーツ学科卒業が、新潟アルビレックスBBラビッツとの2020-2021シーズン選手契約を締結しました。溝部選手は、Wリーグの舞台に立つことへの強い覚悟と責任を持ち、感謝の気持ちを忘れず、たくさんの事にチャレンジしていきたい。」とコメント。応援よろしくお願いします。



提供:新潟アルビレックスBBラビッツ
溝部 稚菜 選手

【救急救命学科】
台湾・宜蘭県政府消防局の式典に
本学学長をはじめ
関係者がオンラインで出席しました



6月17日(水)、台湾・宜蘭県政府消防局の「救助シミュレーション教室と設備」贈呈式に、本学から西澤 正豊 学長らがオンラインで出席しました。当日は、台湾で2つ目となる大規模な救助シミュレーション教室と設備のデモンストラーションの様子が映し出されたり、西澤学長と林 姿妙 宜蘭県長らが意見交換を行ったりと、式典はいっそう有意義なものとなりました。今回のオンラインによる国際交流にご尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝いたします。

スポーツ庁委託事業「女性アスリートの育成・支援プロジェクト(女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究)」に、本学が選定されました!

令和2年度、スポーツ庁委託事業「女性アスリートの育成・支援プロジェクト(女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究)」に本学が選定されました。本事業は、女性アスリートの活躍に向けた支援や、ジュニア層を含む女性アスリートが健康でハイパフォーマンススポーツを継続できる環境を整備することを目的としています。

○選定テーマ

「月経周期におけるコンディション不良に対する運動器機能と中枢神経機能からアプローチする新たなトレーニング法傷害予防法の開発」

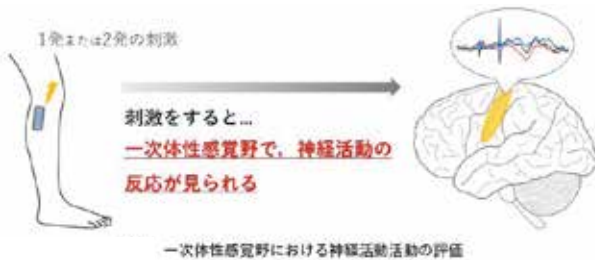
○プロジェクト統括者
江玉 睦明(理学療法学科教授、アスリートサポート研究センター副センター長)
佐藤 大輔(健康スポーツ学科教授、運動機能医科学研究所副所長)



月経周期によって
一次体性感覚野の興奮性は変動する
(健康スポーツ学科佐藤 大輔 教授ら)

五十嵐 小雪さん(大学院修士課程2年、スポーツ庁委託事業「女性アスリートの育成・支援プロジェクト」RA)と佐藤 大輔 教授らの研究論文が国際誌に掲載されました!

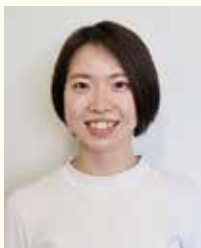
足関節捻挫は、スポーツやレクリエーション活動で最も頻繁に起こります。特に女性における捻挫の発生率は男性と比べて高いことが知られており、その背景には、女性ホルモンの変動、すなわち月経周期が大きく影響していると考えられています。しかし、足関節の関節位置覚と月経周期との関係性については、これまで明らかになっていませんでした。そこで本研究では、女性被験者の月経周期を把握して、排卵期・排卵期・黄体期の3期に刺激に対する一次体性感覚野の反応を評価するなどの実験(左図)を行いました。



その結果、排卵期に一次体性感覚野の抑制性ニューロンの働きが低下することが分かった。月経周期は一次体性感覚野の活動を変化させることが明らかとなりました。これには、排卵期に多く分泌されるエストロゲンの神経の興奮性を高める作用が関係していると考えられます。一方で、感覚閾値や関節位置覚などの感覚機能は月経周期によって変化しないことが分かりました。

《五十嵐さんからのコメント》

現在、月経周期は多くの研究で着目されていますが、実際に月経周期が何に対してどのような影響を与えているかということは、まだ詳しく分かっていません。しかし、本研究の結果から、一次体性感覚野の興奮性は月経周期によって変動する一方で、感覚機能は変化しないことが明らかとなりました。今回は、感覚機能のみに焦点を当てて研究を進めてきましたが、私たちが生活をする上で、感覚情報をもとに行動することが必要不可欠になります。そのため今後は、感覚情報を処理する過程やそれを基に行動や運動に移すことに着目し、感覚運動機能が月経周期によって変化するかどうかを検討していきたいと考えています。



五十嵐 小雪 さん



リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点

— Sports & Health for All in Niigata —

足関節捻挫予防に重要な筋肉である長腓骨筋の構造を明らかにしました！
(理学療法学科 江玉 睦明 教授ら)

スポーツ選手に好発する疾患として、足関節内反捻挫(足首を内側にひねる)があり、スポーツ傷害の中で最も発生頻度が高いため、多くのアスリートを悩ませています。近年、様々な予防法が報告されており、その一つに長腓骨筋の筋力トレーニング(機能改善)がありますが、この長腓骨筋は非常に複雑な構造をしているため、解剖学的特徴についてはまだ十分に明らかにされていません。そこで本研究では、52体104足という大規模標本を用いて主に停止部を検討しました。

その結果、長腓骨筋は全例で第1中足骨に停止しており、一般的に多く付着していると考えられている内側楔状骨には約20%しか停止していませんでした。また、太い長腓骨筋腱から3つの枝(The anterior femoral ligament, the posterior femoral ligament, additional bands)が存在し、約30%の割合で母指球や小指球を構成する筋群に停止していることが明らかになりました。本研究は、国際誌『Surgical and Radiologic Anatomy』に掲載されました。

《江玉先生からのコメント》

本研究結果は遺体を対象にした研究になります。残念ですが、この研究成果ではアスリートのけがを治すことも予防することもできません。しかし、このような研究成果を一つひとつ蓄積し、努力していくことが我々の使命であると考えています。本研究結果を基に生体を対象とした研究を進めていき、一日でも早く有効な治療法や予防法を開発して、けがで苦しむアスリートを一人でも減らしていきたいと考えています。



江玉 睦明 教授

心臓から脳への入力によって、運動に関わる経路の興奮性が変動！
(理学療法学科 大鶴 直史 准教授)

心臓のような体の内部から脳に運ばれる情報は、内受容情報と呼ばれています。この情報によって、触覚などの感じ方が変動することが知られていました。しかしながら、運動の経路にどのような影響を与えているかは明らかではありませんでした。そこで運動の経路の興奮性を評価できる運動誘発電位を指標に検討しました。

結果、運動の経路の興奮性は心臓からの入力によって変動している可能性が示されました。また、この変動は内受容情報に敏感な人とそうでない人では異なっていることも明らかになりました。本研究は、国際誌『Neuroscience』に掲載されました。

《大鶴先生からのコメント》

本研究は、心臓の活動から一定のタイミングで運動の経路の興奮性が揺らいでいることを示しています。つまり、心臓の活動からあるタイミングでは運動の経路が興奮しやすかったり、逆に興奮しにくかったりする可能性が想定されます。この結果は、運動の経路に対する新たな介入手法を生み出す基礎的知見になる可能性を秘めています。



大鶴 直史 准教授



指先で能動的な触覚刺激入力を繰り返すことで、指先の感覚機能が向上する！
(大学院修士課程2年 渡邊 拓さん)

ヒトの皮膚に対して反復的に触覚を入力し続けることで、入力された部位の感覚機能が向上することが知られていました。今までは、触られることによる触覚入力(Passive Touch)の介入効果に関する検討が主に行われていましたが、本研究では自発的に触ることによる触覚入力(Active Touch)の介入効果を検討しました。

結果、Active Touchによる反復的な触覚入力を10分間行うことで、入力された部位の感覚機能の向上が認められました。一方、Passive Touchの介入後は、感覚機能は変化せず、介入効果が介入前の感覚機能によって異なる傾向が認められました。本研究によって、触覚刺激の介入効果は入力様式によって異なることが明らかになりました。本研究は、国際誌『Frontiers in Neuroscience』に掲載されました。

《渡邊さんのコメント》

本研究で評価した二点識別覚という感覚機能は、中枢神経疾患や加齢などにより低下することが明らかとなっています。しかしながら、現状では、感覚機能が低下している症例に対する効果的な理学療法は確立しておらず、感覚機能を向上することが可能な介入方法の検討が必要です。本研究で用いたActive Touchの介入時間はわずか10分間であり、リハビリテーションの時間が制限された臨床現場でも活用できる可能性を秘めています。今後は、Active Touchの介入効果の背景にある神経生理学的な変化を検討したいと思っています。



渡邊 拓さん

SHAINプロジェクトとは 文部科学省 平成29年度 私立大学研究ブランディング事業の選定プロジェクトの通称。リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合により「Sports & Health for All in Niigata(SHAIN) = 地域住民からアスリートまですべての人が安全にスポーツを楽しみ、幸せな生涯を過ごす新潟県」の創出を目指します。

第20回伍桃祭(大学祭)案内

10月11日(日)

今年のテーマ

「天進楽華」

今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、多くの人々に甚大な被害がもたらされ、今もなおその状況が続いています。今年の伍桃祭はその影響を鑑みて、オンラインでの1日開催とします。

新潟医療福祉大学は今年、創立から20年が経ち、それに合わせて本学の大学祭でもある伍桃祭も今年で節目となる20回目を迎えることができます。本学は、優れたQOLサポーターを育成するために質の高い医療系総合大学として進化し続けています。

20回目となる今年の伍桃祭は、「天進楽華」というテーマで開催します。このテーマには「全ての人が伍桃祭を心から楽しみ、沢山の笑顔が咲き誇り、そしてその笑顔が、楽しさが、空から降り注ぐ暖かい陽光のように周りの人々にも広がっていきますように。」という思いを込め決定しました。テーマの思いの中には「伍桃祭で咲いた笑顔が今の世の中に明るい影響をもたらしてほしい」という願いも込められています。

今年はいよいよ初めてとなる、オンライン大学祭を開催します。そのため、豪華ゲスト



による配信やオンライン上でも楽しめる企画を多数ご用意しています。ご視聴いただく皆様が少ないの間日常を忘れ、おおいに楽しめる時間をお届けできればと思っております。ぜひご参加ください。

しかし、やむを得ず中止になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

最後になりますが、伍桃祭は協賛を頂きました企業様や、お越しいただく皆様のおかげで成り立っています。今年も多くの協力賜り、厚く御礼を申し上げます。

10月11日(日)、オンライン上にて、多くの方のお越しを心からお待ちしております。

第20回伍桃祭実行委員兼学友会副会長

本山 雅大

SNS公式アカウントのご紹介

本学では、Facebook、Twitter、LINE、InstagramなどのSNSで様々な情報を発信しています。



Facebook
▶@nuhw.news



Twitter
▶@nuhw11



LINE
▶@nuhw



YouTube
▶NUHWmovie



Instagram
▶nuhw



TikTok
▶@nuhw

※QRコードが読み取りづらい場合は、カメラをズームにして読み取ってください。

C O L U M N

医福のアレナニ?



Vol.4

学内にある鳥居の秘密

本

学には正面向かって左手にお社があります。

学校法人新潟総合学園は、宗教法人愛宕神社から始まっているNSGグループに属する法人です。グループの設立母体が神社であるため、新潟医療福祉大学内にお社が建立されました。

入学試験の時には、保護者がお参りしている光景を目にします。また本学学生は4年生になると、国家試験に臨みますが、試験日が近づくことこのお社の前で神主さんによる合格祈願祭が行われます。学生の皆さんが日々安全に過ごせるように、そっと見守ってくださることでしょう。



新潟医療福祉大学 広報誌「QOL」サポーター新潟
Vol.53 2020年9月15日発行



新潟市北区島見町1398番地 TEL: 025-257-4455(代)
https://www.nuhw.ac.jp
【入試事務室】TEL: 025-257-4456 E-mail: nyusis@nuhw.ac.jp

